

平成28年度イベント事業評価 結果概要の一覧

No.	事業名	所管部・課	事業開始年度	事業開始の経緯など	事業の目的	実施時期	(人)				(円)				担当課評価(概要)	二次評価(概要)	
							参加者数(a)	会計区分	人件費(b)	その他経費(c)	経費合計(d=b+c)	国・府補助金など(e)	町の負担額(f=d-e)	参加者一人当たり概算コスト(g=a/f)			
1	ふれあい夜店と人権文化まつり	総合政策部 人権文化センター	S57	住民のみなさんに親しまれる施設をめざして	人権文化の構築、近隣住民・関係団体・利用団体等との交流を進め、人権尊重のまちづくりを進める	9月	約 4,000	一般	423,168	756,000	1,179,168		1,179,168	295	効率化・要改善	まつりにおける「人権啓発」を強化することで複合的な啓発に取り組むことを検討。 効率化・要改善	「人権尊重のまちづくり」という観点から、啓発的要素を充実させる（パネル展示を同時期に開催するなど）ことが望ましい。 担当課が模擬店に出店する複数団体の事務局を担っているが、事業全体を円滑かつ効率的に運営する観点から、職員関与のあり方などについて検討が必要。 昼の部と夜の部が分離していることは非効率とも考えられる。時間帯の統合により、イベント全体の集客力アップと人件費コストの縮減を図っていただくことが望ましい。
2	人権のつどい	総合政策部 人権文化センター	S57	「世界人権宣言35周年記念事業」として（人権週間事業）	人権・平和啓発講演会等を通じて、住民の方々に人権と平和の重要性に理解を深めてもらう	12月	132	一般	160,512	428,000	588,512	250,000	338,512	2,564	効率化・要改善	実施時期が12月の休日ということもあり、来場者が多くないことが最大の課題。 統合・縮小化	人権に係る他の定例行事では多数の参加者があるが、同会場で7月に実施する「人権と平和のつどい」と比較しても、本事業に係る近年の参加者数は低調な状況にある。 人権週間における広報啓発の手法は様々で、実施時期がハンデになるのであれば、必ずしもこの期間中に公演行事を実施しなければならない訳ではないと考えられる。 関係団体とも協議しながら、ケリヤホールを会場とする同一目的の2事業を一本化（例えば、映画上映と著名人による講演などを隔年で実施するなど）するか、他の集客力を有する行事（福祉大会など）との同時開催に向けた検討を行うことが望ましい。
3	人権と平和のつどい	総合政策部 人権文化センター	S63	「世界人権宣言40周年記念」と銘打って	人権・平和啓発映画の上映を通じて、住民の方々に人権と平和の重要性に理解を深めてもらう	7月	211	一般	94,848	172,800	267,648		267,648	1,268	効率化・要改善	実施に係る事務を効率化することで人件費削減の余地がある。 統合・縮小化	会場に対する来場者数の状況は良好で、アンケート結果から満足度の高さが伺える。一方、同会場で12月に実施する「人権のつどい」の参加者数は低調な状況にある。 近年、町の補助団体により、幅広い世代を対象とする様々な啓発事業が実施されている状況も踏まえ、ケリヤホールを会場とする同一目的の2事業を一本化（例えば、映画上映と著名人による講演などを隔年で実施するなど）することについて、関係団体とも協議しながら、検討していただきたい。
4	防災とボランティア訓練	総務部 危機管理室	H9	阪神・淡路大震災の日が「防災とボランティアの日」と定められたことを契機として	防災意識の高揚を図るとともに、災害時の住民の自主的な避難・誘導体制等の訓練に寄与する	1月	約 500	一般	751,488	117,000	868,488		868,488	1,737	効率化・要改善	各自主防災組織や自治会でも同様の訓練を実施されており、規模の違いだけとの見方もできる。 町の総合防災訓練との統合も視野に入れ検討する。 効率化・要改善	自治会長連絡協議会、自主防災会連絡協議会、町の3者が主催し、避難・防災資機材・消火・炊き出し訓練などが実施されており、意義のある取組内容となっている。 一方で、企画・事前準備から当日の運営に至るまで、大部分が職員負担で成り立っており、当初の事業趣旨である「自助」「共助」へのシフトを図るべく、担当課評価にある実行委員会制への移行や、町防災訓練との統合も視野に、効果的な実施手法を検討していただくこととする。
5	福祉大会	健康福祉部 福祉推進課	S59	「敬老の日」の記念品贈呈・演芸会等から始まる（S59～福祉大会）	福祉関係団体、高齢者・障害者等の参加のもと、福祉に関する啓発や交流、福祉意識の醸成を図る	9月	約 3,400	一般	1,021,440	2,249,125	3,270,565		3,270,565	962	効率化・要改善	目的・対象・内容が広範多岐にわたるため、目的や対象の絞り込みを行い、より効率的な手法で実施する必要がある。 効率化・要改善	課題となる点は、職員負担の大きさ。社会福祉協議会に企画運営を委託している一方で、会場設営、式典対応、警備などに職員が動員されており、これらの適正化に向けた検討が必要。 表彰については類似事業との統合、活動発表については他の事業における発表や作品展示などとの連携、警備については委託範囲の拡大などにより、人件費を抑制できる可能性がある。 担当課が改善案として掲げている内容も含めて、効率的な実施に向けた具体的な検討、調整を進めていただくこととする。
6	障害者週間ふれあいバザール	健康福祉部 福祉推進課	H24	障害者週間啓発事業の一環として	障害者理解の促進、施設の販売商品のPR、工賃向上を目的とする	12月	約 300	一般	196,992	12,134	209,126		209,126	697	効率化・要改善	単独の販売イベントとしては小規模で集客に限界があるため、他事業との連携を検討する必要がある。 効率化・要改善	町の負担はほぼ人件費のみであり、集客状況からすると比較的少ないコストで実施できている現状にはあるが、担当課の改善案に基づき、今後、より大きなPR効果・販売実績を上げることができるよう、駅前での開催や他事業との連携に向け、関係者と調整を図っていただくこととする。
7	グラウンドゴルフ大会	健康福祉部 保険年金課	H16	島本町年長者クラブ連合会からの依頼を受けて	グラウンドゴルフを通じて参加者同士の交流を深めるとともに、年長者の健康増進を図る	10月	約 130	国保	14,592	25,000	39,592		39,592	305	廃止・休止	国民健康保険被保険者の健康増進を図るため実施していたが、現在では75歳以上の後期高齢者が多数を占めることから、国保会計からの支出は好ましくない。 廃止・休止	町の負担は限定的であり、年長者の健康づくりに資する一方で、年長者クラブ連合会によるグラウンドゴルフ大会は、一般会計からの補助金を活用し他にも複数回実施されており、参加実態等を考えると国民健康保険事業特別会計から支出することについては見直しの余地がある。 今後は同補助金からの支出に切り替えるとともに、同団体により運営されている他のグラウンドゴルフ大会も含めた効率的・効果的な実施に向け、同団体と協議を行っていただくこととする。

注：参加者数及び経費は平成27年度の実績

(人)

(円)

注:参加者数及び経費は平成27年度の実績

No.	事業名	所管部・課	事業開始年度	事業開始の経緯など	事業の目的	実施時期	参加者数(a)	会計区分	人件費(b)	その他経費(c)	経費合計(d=b+c)	国・府補助金など(e)	町の負担額(f=d-e)	参加者一人当たり概算コスト(g=a/f)	担当課評価(概要)	二次評価(概要)
8	農林業祭	都市創造部にぎわい創造課	S58	近郊農業・林業の振興を図る必要性から	本町の農林業の振興を図ることを目的とする	11月	約 5,000	一般	2,760,060	1,000,000	3,760,060		3,760,060	752	効率化・要改善 実際には多くの業務を職員が行っている。実行委員で実施できない事業については、実施が本当に必要か再検討するなど、職員の関与は効果的かつ最小限のものとなるよう検討する必要がある。	効率化・要改善 職員の関与が非常に大きいのが特徴。町内で収穫された農産物にふれ、地産地消を推進することも本イベントの成果の1つとなっているが、他府県産の野菜の販売など、事業目的に必ずしも直結しないと思われる内容も含まれている。運営面の役割分担における町職員の関与を低減させることや、事業目的に照らしての行事メニューの精査、会場警備・整理の一部を外部委託できないかの検討など、効率的・効果的な実施に向け、関係者と丁寧に調整していただくことが望ましい。農地所有者以外で農業の担い手になりたいという方がいるなら、そのような方々に協力していただくのも一案。他団体事例を参考に他の行事(例えば消費者まつり)と統合的に実施することについても検討の余地がある。
9	消費者まつり	都市創造部にぎわい創造課	H2	「消費者保護基本法」記念事業との位置づけで	消費者啓発と消費者相談事業のPR	5月	約 3,000	一般	981,000	128,000	1,109,000		1,109,000	370	効率化・要改善 事業の趣旨・目的を再確認した結果、イベント内容の抜本的な見直しを行う必要がある。	統合・縮小化 本事業における消費者啓発の側面は限定的。住民主体のイベントと同時開催するなどの工夫により、費用対効果の面では改善が見られるが、消費者保護という行政目的を達成するための手段として再考の余地がある。他団体事例を参考に、他の行事と統合的に実施することや、お祭り以外の手法による広報啓発活動への転換も含めて、主催団体とも協議しながら効率的な実施方法を模索すべき。
10	観光あるき	都市創造部にぎわい創造課	H24	阪急電鉄と沿線自治体の連携事業として	阪急京都線沿線の市町の魅力を伝える	—	47	一般	236,680	200,000	436,680		436,680	9,291	現状維持 観光施策のメイン事業の一つであり、広域連携の取組の一つでもあることから、現状を維持すべき。	効率化・要改善 本町の観光資源を、電鉄会社の知名度や広報力を活用して広く発信することで、本町への新しい人の流れの創出に寄与していると考えられる。一方で、費用対効果の面で課題が見られ、職員関与の効率化が必要。類似事業も含めた事業効率の向上に向け、調査検討していただきたい。対象者を「どなたでも」としているが、定住促進・観光振興計画では、誘導する観光客のターゲットを「近隣市町の住民」としており、戦略的に対象者を限定することも一案。
11	サントリー山崎蒸溜所との連携によるまちあるき	都市創造部にぎわい創造課	H25	サントリー山崎蒸溜所と大山崎町との共同事業として	本町の重要な観光資源である山崎蒸溜所と共同し、まちの魅力を伝える	6・10月	137	一般	273,160		273,160		273,160	1,994	効率化・要改善 他の事業(観光あるき)との統合なども検討する必要がある。	効率化・要改善 共催してきた大山崎町が不参加となったことを受け事業内容を大幅に見直しされているが、見直し成果の検証とともに、類似事業も含めた事業効率の向上に向け、開催頻度や手法、職員関与のあり方などを調査検討していただきたい。対象者を「どなたでも」としているが、定住促進・観光振興計画では、誘導する観光客のターゲットを「近隣市町の住民」としており、戦略的に対象者を限定することも一案。
12	ワクワク!しまもと環境学校(旧:水無瀬川ウォッチング)	都市創造部環境課	H27	水無瀬川ウォッチング(S62~)の事業見直しにより	島本町環境基本計画に掲げる環境学習を、住民・事業者・町の協働で推進する	7月	355	一般	550,672	104,788	655,460		655,460	1,846	重点・拡大 事業見直しを行って間がないため、現状を維持しつつ工夫を重ねる。必要に応じ実行委員会形式への移行も検討。あわせて統合可能な事業を模索する。	効率化・要改善 平成27年度に事業内容を大幅に見直し、住民・事業者との協働事業に転換するとともに、一定のコスト削減が図られている。町の総合戦略との関連性も高い。しかしながら、依然として多くの職員が会場設営や警備などに携わっており、担当課評価にある実行委員会制への移行なども含め、効率的・効果的な実施に向け改善を重ねていただきたい。
13	町内一斉清掃及び不法屋外広告物等撤去活動	都市創造部環境課	不明		在任・在勤者等の清掃への参加により、まちの美化と住民の美化意識の向上を目的とする	7・12月	約 4,800	一般	656,640	677,201	1,333,841		1,333,841	278	効率化・要改善 広報手法について、より多くの方に参加いただけるよう創意工夫する。事業実施回数や手法などの検討を行う。	効率化・要改善 事業目的に合致した取組内容である。幅広い世代の多くの住民の皆様に参加いただいております。環境美化に対する啓発効果も高いと考えられる。経費削減の余地は少ないと思われるが、より効率的・効果的な事業実施に向け、実施回数や手法について検討していただきたい。
14	大藪浄水場の一般開放	上下水道部工務課	S50	水道週間事業として	水道水ができるまでの一連の工程を知っていただき、水道水をより安心して飲んでいただく	6月	3	水道	206,675	6,653	213,328		213,328	71,109	効率化・要改善 町の水源である井戸水を活用するなど、来場者を増加させる取組を検討する。	効率化・要改善 本町の魅力の一つである「水」を安心して使用していただくための取組であり、事業内容は目的に合致していると考えられるが、昨年度の参加者は3名にとどまり、費用対効果の面で大きな課題がある。経費の大半は土・日曜日対応のための人件費で、平日については通常業務を行いながらの対応が可能とのことである。したがって、まずは土・日曜日の実施に係る見直しを行っていただくこととする。その後の参加者数の推移によっては、事業自体のあり方も含めた検討が必要。

(人)

(円)

注:参加者数及び経費は平成27年度の実績

No.	事業名	所管部・課	事業開始年度	事業開始の経緯など	事業の目的	実施時期	参加者数(a)	会計区分	人件費(b)	その他経費(c)	経費合計(d=b+c)	国・府補助金など(e)	町の負担額(f=d-e)	参加者一人当たり概算コスト(g=a/f)	担当課評価(概要)	二次評価(概要)	
15	防火まつり	消防本部管理課	S54	春の火災予防運動をより有意義なものにするため	防火思想の普及徹底、救急車の適正利用、救命講習の普及	11月	約 400	一般	335,616		335,616		335,616	839	現状維持	過去数回にわたり内容を見直ししながら、防火思想の普及啓発を目的に安全・安心なまちづくりに努めている。救急車の適正利用、救命講習の普及にもつなげている。	文化祭と同時開催することによる集客効果が認められる。町の負担は人件費コストのみ、比較的少ない経費で実施できると認められるが、当日には20人以上の職員が動員されており、より効率的な実施に向け工夫を行う余地はあると思われる。救急車の適正利用に係る啓発や、救命講習を実施するなど、必要に応じ内容の見直しが行われているが、啓発効果を検証するため、なるべく職員に事務負担をかけない方法で、来場者の声を聴取することも検討していただきたい。
16	文化祭	教育こども部生涯学習課	S39	「文化の日」行事として、島本町文化の会(現:文化協会)が第1回を開催	「まもろう・つくろう・そだてよう」をテーマに、島本の文化を育むとともに、生涯学習の普及振興を促進する	11月	約 13,000	一般	1,232,846	2,588,133	3,820,979		3,820,979	294	効率化・要改善	実行委員会の組織内容を検討する必要がある。同日開催をやめ部門毎に実施することで、安全対策やイベント運営が現状より容易になる。一定期間におけるイベントの総称としての「文化祭」を検討し、期間中に青少年健全育成大会を包括することも検討したい。	規模や来場者数の面で町内最大のイベント。来場者数は1万人を超え、実施会場が複数あるイベントにも関わらず、費用対効果の面では他事業との比較において適正と評価できる。文化祭の同時期に青少年健全育成大会が実施されており、担当課の負担がこの時期に重なっている。また、青少年健全育成大会は、第一部「人形劇」と第二部「舞台発表(島本ART-BOX)」で構成されているが、第二部では文化祭の舞台部門(ケリヤホール及びパフォーマンス広場)と内容面での類似性が認められる。これらの統合的実施も視野に、担当課評価にある「文化祭」期間の中に、青少年健全育成大会などを包括することを検討していただくこととする。
17	青少年健全育成大会	教育こども部生涯学習課	S59	青少年の健全育成と非行防止の啓発を目的に「全国青少年健全育成強調月間」にあわせて	青少年が心身ともに健やかに成長できるよう、家庭や学校をはじめ地域と行政が連携し、青少年を取り巻く健全な環境を形成することを目的とする	11月	約 420	一般	634,633	330,586	965,219		965,219	2,298	効率化・要改善	さらなる改善に向け、他事業との連携・統合について検討する余地はある。	第一部の人形劇には未就学児とその保護者を中心に多数の参加者があるが、「月間」の趣旨から、児童虐待予防啓発などを併せて実施すればより効果的ではないかと思われる。第二部の舞台発表(島本ART-BOX)は、文化祭の舞台部門(ケリヤホール及びパフォーマンス広場)と内容面で類似している。近年、住民主体での音楽イベントが定期的で開催されており、民間代替可能性も認められる。運営面では、多くを青少年指導員協議会に担っていただいているものの、同時期に文化祭があるため担当課の負担がこの時期に重なっている。担当課評価でも他事業との連携・統合の余地について言及があり、今後、青少年指導員協議会とも協議のうえ、「文化祭」期間中に本事業を包括するなどの検討を行っていただくこととする。
18	YYワールド	教育こども部生涯学習課	S60	「国際青年年」記念行事として開催	青少年健全育成の意識の向上と青少年活動の活性化を目的とする	4月	約 12,000	一般	1,492,025	894,091	2,386,116		2,386,116	199	統合・縮小化	子どもが楽しむ事業や場所はたくさんあり、お祭りの事業は社会教育などにとって昔ほど効果的な事業とはいえない。住民の主体的な運営とならず、その課題解決は相当困難、企画運営全般にわたり行政負担が大きいことなどから、単独開催は見直す。	春の子ども向けイベントとして広く住民のみなさまに浸透している一方で、創設当初と比べ現在では、親子や子どもが楽しむ場は社会の中で充実し、青少年を取り巻く課題も変化している。企画運営全般に町職員が関与し行政負担が大きく、一部参加団体にも負担感が見られ、実行委員会でも事業見直しの必要性について意見が出た経過があるとのこと。担当課評価のとおり見直しを行うことが妥当と考えられる。 ※平成28年度、本評価作業と並行して行われた実行委員会における協議検討の結果、本事業は平成29年度をもって終了することが決定し「ファイナル」と冠して開催されることとなった。
19	成人祭	教育こども部生涯学習課	不明	「成人の日」行事として	新成人に成人としての自覚を新たに促す啓発と、成人の門出を祝うことを目的とする	1月	222	一般	585,693	1,030,163	1,615,856		1,615,856	7,279	現状維持	式典の要素が強く、一般的に行政が主催しているものである。	新成人の9割近くが参加しており、新成人が実行委員を担い社会参画することにより、成人としての自覚を持ってもらう良い機会となっている。当日の動員職員数が多いことが課題。担当課の改善案にある会場や来賓の見直しなども含め、事業の規模などに応じた効率的な実施に努めていただくこととする。

(人)

(円)

注:参加者数及び経費は平成27年度の実績

No.	事業名	所管部・課	事業開始年度	事業開始の経緯など	事業の目的	実施時期	参加者数(a)	会計区分	人件費(b)	その他経費(c)	経費合計(d=b+c)	国・府補助金など(e)	町の負担額(f=d-e)	参加者一人当たり概算コスト(g=a/f)	担当課評価(概要)	二次評価(概要)
20	水無瀬駒のふるさと小・中学生等将棋大会	教育こども部生涯学習課	H22	水無瀬駒を町指定文化財に指定、その啓発や伝統文化の活性化のため	水無瀬駒のふるさとである本町の将棋文化等の保護と発展、住民の郷土理解と文化の向上、文化遺産を活かした観光振興・地域活性化の発展	1月	約 200	一般	200,175	276,500	476,675	276,500	200,175	1,001	効率化・要改善	比較的近年に開始され、内容的にも本町の貴重な文化財の顕彰と住民の郷土理解などにつながる取組と認められる。また、文化庁の補助金を活用しており、町の負担は人件費コストのみとなっている。引き続き、実行委員会とも協議のうえ、創意工夫をもって、観光振興にもつなげるための取組と、より効率的な運営をお願いしたい。
21	町民スポーツ祭	教育こども部生涯学習課	S42	「体育の日」行事として	生涯スポーツの普及振興を促進し、生涯スポーツボランティアの育成等に努めるとともに、住民相互の親睦と健康増進のため	10月	延 4,375	一般	317,376	2,505,000	2,822,376		2,822,376	645	現状維持	幅広い世代の多数の参加者があり、事業の目的である「町民相互の親睦と健康増進」に寄与しているものと考えられる。一方で、自治会の参加率としては低調な状況にあり、高齢化の進展などに伴い、今後、自治会対抗という側面を維持することについては困難が予想される。引き続き効率的な事業実施と、将来に向けて持続可能な取組とするための調査研究に努めていただきたい。
22	スポーツ・レクリエーション祭	教育こども部生涯学習課	H8	「なみはや国体」を契機として	町民だれもが、生涯それぞれの時期において、体力や年齢に応じて、いつでもどこでもスポーツに親しむことができる「生涯スポーツのまちづくり」の実現	3月	522	一般	72,960	595,000	667,960		667,960	1,280	現状維持	「生涯スポーツのまちづくり」という事業目的に合致した取組内容と認められる。一方で、担当課がイベントに求める成果が町民スポーツ祭と同一内容となっており、統合実施などの可能性について検討の余地がある。事業目的及び内容の面で、総合型地域スポーツクラブにおける取組とも共通性が認められることから、実施主体のあり方などについても検討の余地があると思われる。将来に向け、実行委員会とも協議しながら効率的な実施手法を検討していただきたい。